

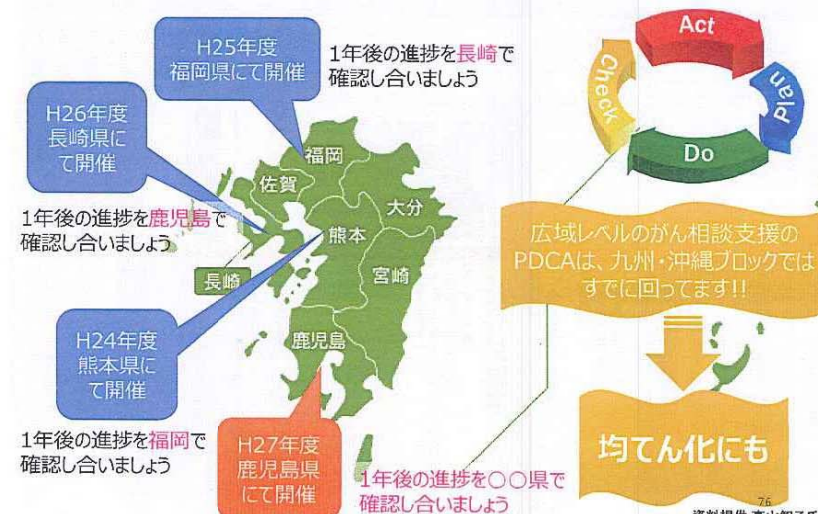
第4回 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin鹿児島 2015. 11. 28



鹿児島大学病院 がん相談支援センター
○田畑 真由美
野村 瑞穂

75

九州・沖縄ブロックの地域相談支援フォーラム



資料提供: 高山智子氏

経緯:「長崎県の次は……鹿児島で!」

- 2015年9月:共催団体採択を受けるために企画書作成!
- 採択不可の場合も実施可能な企画案を立案!
- 鹿児島県がん診療連携協議会の協力も依頼! 保障

【企画案を考える上で鹿児島の課題・問題】

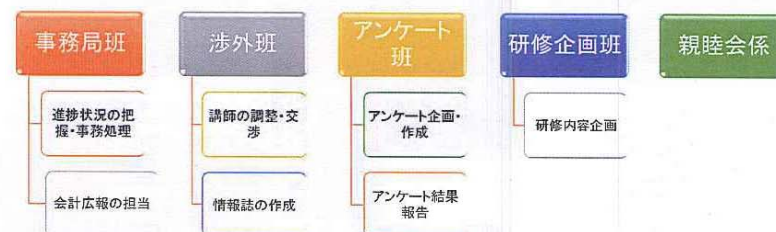
- ・患者・家族の生活を支援している各地域の医療・福祉・介護の専門職種との連携が、まだ効果的に行われていない
- ・県民のニーズに、相談支援センターは応えることができていないのか?

テーマ「がん相談支援センターのステップアップ」
～周知と共働を目指して～

77

組織づくり……鹿児島県相談員全員参加で

○コアメンバー会議: 13回	○実行委員・全体会議: 5回
・指導者研修終了者: 4名 ・拠点病院1名 ・行政1名 ・国立がんセンターの支援者: 2名	・県内21カ所拠点・指定病院相談員 ・NPO法人がんサポートかごしま(患者会)



78

活動経過

	2014 9月	10月	11月	12月	2015 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
メンバー	①コア会議	②コア会議	③コア会議	④合同会議	⑤コア会議	長崎フォーラム参加									
実行員	県内														
実行員	県外														
															
															
活動内容	実行委員会：企画案作成 ・県がん診療連携協議会へ報告 県内実行委員会「フォーラム」の主旨説明 【前年度開催長崎県の報告】 「フォーラム」共催団体採択決定 【事務局班】 予算案の作成 大会会場の選出 【渉外班】 講師の選出・日程調整 【研修企画班】 グループワークの構成・内容の検討 相談員サロンの企画 アンケート票の作成 アンケート用紙の作成 「海外班」 講師の選出・日程調整 「最終打ち合わせ（スケジュール確認）」 宮城県「アメニバー」の意見交換会 グループワークの内容修正 【研修企画班】全体「トレーニング」 国立がん情報センターヒスノー・ムーベシアップ 合同会議（長崎県安藤さん出席） スケジュール表・マニュアル表の作成 ポスター作成 案内状の送付														

79

平成27年度 地域支援フォーラム in 鹿児島

テーマ「がん相談支援センターのステップアップ
～周知と共働を目指して～」

開催日時：平成27年11月20日(土) 9:00～16:30
会場：鹿児島県市町村自治会館
〒890-0064 鹿児島市鶴池新町7番4号(県庁前)

【プログラム】
午前9時 9:00～12:00

開会挨拶 鹿児島大学病院院長 龍木一朗
国立がん研究センターがん対策情報センター 若尾文彦

①九州各県のがん相談支援センターの取り組み・活動状況報告

「がん相談支援センター周知度アンケート結果と考察について」
鹿児島県のがん相談支援センター報告：鹿児島大学病院MSW 野村瑞穂

②特別講演「聴く・聞く・語る」
浄土真宗本願寺派普光寺住職 長倉伯博

午後1時 13:00～16:30

③「聴く・聞く・語る」をテーマにグループワーク
～「書く」ために私たち相談員ができる(すべき)こと～

④人形・沖縄相談員サロン：今語りたこと、困っていることを話そう！

共催：鹿児島県がん診療連携協議会、九州・沖縄フォーラムin鹿児島実行委員会
協賛：国立がん研究センターがん対策情報センター
後援：鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、沖縄県、(順不同)

①鹿児島県アンケート班の取り組み発表

「周知度アンケートから見てきたもの」

目的：『がん相談支援センター』が、医療・保健・福祉の各分野に従事している
専門職種にどの程度認識されているかを把握する。

- ①がん相談支援センターを知っている ②がん拠点・指定病院を知っているか？
③所属先の二次医療圏を知っているか？ ④相談内容・役割を知っているか？【10項目の質問用紙を作成】

結果：

- 所属する医療圏・拠点/指定病院の周知度は、71.3%・62.2%
- 「医療相談」の周知は、97.6%
- 「がん相談」の周知は、51.1%
- 設置場所の周知は、69.1%

- 今回の調査で『がん相談支援センター』の役割を地域の医療・保健・福祉の各分野に従事している専門職に周知出来た。
- 定期的に、今回と同様のアンケートを実施することで、周知効果の確認が期待できる。
- アンケート結果より、相談支援センターの周知に向けた取り組み・目標を設定したうえで、対策立案から実施へとつなげていくことが今後の課題。

①各県の取り組み発表(一部抜粋)



○沖縄県：ITを利用したケア会議開催
(八重山病院)



○長崎県：がんとうき合う
サポートブックをがさる



○佐賀県：リレー・フォー・ライフ・ジャパン
2015佐賀



○宮崎県：相談支援専門部会設置規程を作成



○大分県：市立図書館へがん情報
患者サポートブックなどの設置依頼



○福岡県：「がん相談支援センターを
地域の支援の輪につなげる新企画」
「博多「どんく」」参加

○熊本県：がん相談支援向上対策会議(就労支援対策)

氏名	所属	担当
山本 浩二	熊本県立中央病院	議長
山本 浩二	熊本県立中央病院	副議長
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事
山本 浩二	熊本県立中央病院	幹事

- 目的：各県のがん相談支援のこの1年間の新たな取り組みを知る。
- ①行政との連携
 - ②がん相談支援センターの広報活動
 - ③がん相談支援センターの新たな取り組み
 - ④PDCAサイクルの現状

②特別講演:「聴く・聞く・訊く」



浄土真宗本願寺派善福寺住職
長倉博先生講演
「響感」

相談に来てくれてありがとう



笑いあり、涙ありの感動の講演でした



昼休憩: 患者会PRスライドショー上映



鹿児島島の幸を盛り込んだお弁当
好評でした。

83

③～“きく”って何だろう～ ～きくために私たち相談員ができる(すべき)こと～

自主制作の2つの場面のDVDを見てグループワーク①不安を多く表出する患者②怒りの表出がある患者

【目標】

- (1)相談員として“きく”ために、どんなことを大切にすべきか、参加者全員で考える機会をもつ。
- (2)“きく”という意味を理解し、スキルアップを図る。
- (3)セルフケアの大切さを知る。

【検討内容】①あなたは、どんなことを大切に、相談者の語りをききましたか。

②あなた自身の心の動きは、どうだったでしょうか。

③あなたは“きく”ために、セルフケアをどのようにしていますか。



【ワーク導入】



【15G:グループワークの様子】



【全グループ(15G):1分発表】 84

④相談員サロン「今、語りたいことを話そう！」

長倉先生の講演:相談員としてどうきく?

グループワークで検討した相談員のセルフケア!

相談員サロンでは、心ケアを県境を越えて語り合う!



* 受講証発行:認定審査に利用可能



患者会・行政の方もグループワークに取り組んでいただきました。
患者会:鹿児島県、福岡県、長崎県、宮崎県、熊本県、大分県
行政:長崎県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県



患者会・行政の方より参加してのお言葉を頂きました。



【患者会代表】



【各行政の方々】



【総評:高山智子先生】



【閉会あいさつ:上野真一先生】

地域がん相談支援フォーラムの 九州・沖縄ブロックでのテーマと共有できたことの変化

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
開催場所	熊本県 	福岡県 	長崎県 	博多どんたくイベント(福岡県)
相談員	103名 九州・沖縄8県	131名	124名(1日目) 116名(2日目)	70名 全国から
行政担当者	5名	9名	6名	1名
部会責任者	—	6名	7名	1名+多数
患者団体から	—	—	4名	3-4名
メインテーマ	院内体制の違いから学ぶ、院内で認められ地域に根付くために	院内外の人にとって、もらうための味方づくり	離島・がん医療空白地帯の現状を知ろう 相談者を支えるネットワークづくり	(案内入り)ティッシュ10,000個 風船1,000個配布 出張がん相談パレード 100名
学んだこと・共有できたこと(一部)	相談員同士が顔の見える関係を築いていくこと	あるべき姿のビジョンを持って病院幹部と話をすることが大切	相談員が人と人、機関と機関の間に介入することで積極的な調整を行うこと	相談したい人はどこにでもいる。気軽に暮らしの中で話せるがん

86

終了時アンケート結果 (201名参加者中:回答者143名)

図1:地区別参加状況

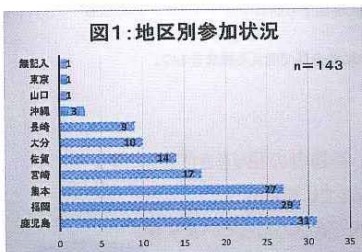


図2:各県の報告

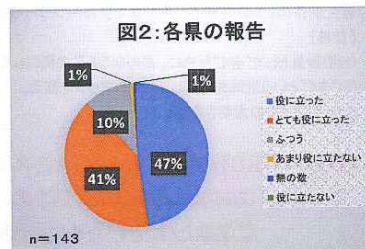


図3:長倉先生の講座

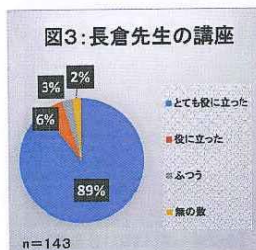


図4:グループワーク

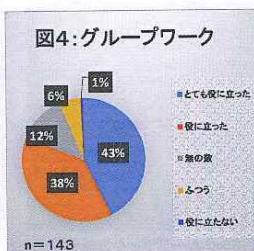
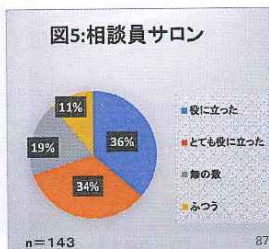


図5:相談員サロン



今後の課題

➤ 相談員全員で取り組み、協議の場を多く設けたことにより、相談員同士の信頼関係が深まりチーム強化に繋がった。この機会をチャンスと捉え、今後部門会開催の機会を増やし、相談員同士の語りの場を保ちつつ、更なる相談員ネットワークの強化を目指す。

➤ 地域の医療者とのネットワークを維持・強化しながら、がん相談支援センターの利用者増を目指す。

➤ 今回のフォーラム開催を受けて、各々が役割機能を果たせたことにより、グループ活動が対応可能になったと考え、がん相談支援部門の活動を充実させるために、教育、広報、地域連携の3つのワーキンググループを立ち上げ、より細かなPDCAサイクルに取り組み、がん相談支援部門の発展を目指す。